

令和7年度 石橋北小学校第1回学校運営協議会議事録

令和7年5月9日（金）

於 校長室

【本日参加者】 13名

・学校運営協議会委員（10名）

大塩 宗里 青柳 庄一 江原 浩之 石嶋 和夫 野口 文夫

寺内 利之 渡辺 佳通 高山 由香利 齋藤 佳代子 校長

澤田 貴典 地域連携教員

・地域学校協働活動推進員 坪山 仁 海老原 忠

・事務局 五月女 穰 教頭 （澤田 貴典 教務主任）

開会

○ 任命書交付

1 校長あいさつ

お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。学校長の、齋藤佳代子と申します。本校3年目になります。よろしくお願いします。

今年度もスタートし、約1か月が過ぎ、新1年生24名も、そして、今年着任した教職員も、少しずつ学校生活に慣れてきたところです。昨日、東京の小学校に2人の男性が侵入するという痛ましい事件が起きました。ここ数日ニュースで、小学生の下校の列に車が突っ込むなど、心の痛む事件が続いています。本校周辺もスマートインターチェンジ工事などで、周辺の環境や景観も変わっていています。常に、子どもたちの命・安全を第一に考え、教育活動にあたっていこうと強く思う所存です。

この会では、地域でどのような子どもを育てるか、何を実現していくのかという目標やビジョンを、保護者や地域と学校が共有して進めていけたらと思います。

本校の子どもたちを、地域のお力をお借りして、共に育てていただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

2 自己紹介

3 会長選出・組織

（会長） 大塩 宗里

（副会長） 青柳 庄一

（環境整備支援部） 江原 浩之 野口 文夫

（学習支援部） 青柳 庄一 渡辺 佳通

（図書活動支援部） 大塩 宗里 高山 由香利

（防犯支援部） 寺内 利之 石嶋 和夫

4 協議内容（進行・・・会長）

教頭	（１）石橋北小学校 学校運営協議会運営規定について ・運営規定の第３条の目的をご覧ください。（第３条：協議会は、保護者及び地域住民の学校運営への参画等を進めることにより、学校との双方向の信頼関係を深め、地域・家庭及び学校が目標やビジョンを共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりを目指すものとする。）協議会は限られた回数にはなりますが、この目的に近付けるように推進していこうと考えています。ご協力よろしく願います。その他の規定に関しましては、後程ご確認ください。
会長	・協議会としても、学校運営への参画という目的から逸脱することのないように動いていきたいと思っています。
校長	（２）石橋北小の教育（学校概要・経営方針）について 《学校要覧・プレゼンテーションソフト等による説明》 【教育目標】心豊かな子 進んで学ぶ子 健康でたくましい子 【目指す児童像】 豊かな心をもち助け合う子ども 自ら考え進んで学ぶ子ども 明るく健康でたくましい子ども ☆それぞれに重点目標あり 【目指す学校像】 学ぶ魅力がある学校（児童にとって） 応援・支援のしがいがある学校（保護者・地域にとって） 働きがいを実感できる学校（教職員にとって） ☆三方良しの学校づくり ・学級数及び児童数：通常６学級 特別支援２学級 合計１５４名 ・職員数：県費市費職員合わせて２２名 【目指す教師像】子どもたちのために何ができるかを常に考え実践する教師 【学校ビジョン】認め合い、励まし合い、助け合う学級を基盤とした学校づくり ☆具体策 １ 「心の教育」の充実 ２ 「確かな学力」の充実 ３ 「ねばり強く取り組む力」の育成 ４ 「信頼される学校づくり」の推進 ・教育目標の１番目が「心豊かな子」であり、特に心の教育に力を入れ、１０項目ある「石北小の当たり前」を作成・実践（ファミリエ下野市民運動「当たりのことを当たりにやろう」と同様の取組） ・３Ａ運動の推進 １ あいさつができる子 ２ あいての気持ちを考えられる子 ３ あきらめずにがんばる子 ・心の教育の充実に向けた実践活動 ☆縦割り班（レインボー班）活動や田植え・稲刈りなどの体験活動を異学年と交流しながら実施

- ☆花の輪運動や花育活動に取り組むなど花いっぱいの学校づくり
- ☆オオムラサキなどの生き物の成長過程を観察し、命の大切さを実感
- ☆地域の教育力を生かしたふくべ細工体験や野菜づくり
- ・確かな学力の充実に向けた実践活動
 - ☆主体的に学びに向かうための授業の工夫（職員研修の実施）
 - ☆T.Tによる細やかな指導
 - ☆タブレット端末を活用した個別最適な学び（職員研修の実施）
 - ☆タイピング力の育成（市全体の取組）
- ・ねばり強く取り組む力の育成に向けた実践活動
 - ☆業間のスポーツタイム（体力づくり）
 - ☆あせの日（勤労・奉仕活動）
 - ☆栄養教諭による食育授業
 - ☆様々な場面を想定した避難訓練
 - ☆スクールガードボランティアによる安全確保（感謝の会の実施）
 - ☆子どもを守る家確認・訪問
 - ☆引渡訓練
 - ☆廃品回収
- ・信頼される学校づくりの推進に向けた実践活動
 - ☆子どもにとってわかる授業の実施（職員研修の実施）
 - ☆充実した家庭教育学級

学校と家庭と地域が協力しながら同じ方向を向き、子どもたちの成長を育んでいけるありがたい地域であると受け止めています。この状態を絶やさず続けていくためには、学校運営協議会の皆様の力がなくては継続できないと考えています。三方良しの学校を目指して今後も取り組んでいきたいと思いをします。

（３）質疑

会長

・魅力のあふれた学校教育を示していただきありがとうございました。意見ということだけでなく、感想で結構ですから、今の校長先生の話に関して皆さんより話を伺いたいと思います。

委員

・私はこの小学校の卒業生で、今は母親という立場になったが、子どもの頃と比べると、コロナの影響もあると思うが保護者間の関係が薄らいだように感じる。授業参観後に実施した保護者アイスブレイクは、保護者同士の関係を再構築する良い機会となった。保護者同士で相談できるような関係性、つながりを作っていくことが大切だと感じた。

会長

・保護者同士のつながりが薄くなっている昨今ですが、北小の取組によってつながりが垣間見えたということですね。

委員	・北小卒業生として、今も変わらないのは地域との距離だと思う。在学中から地域の方の協力を仰いで、地域の様々な場所を訪ねて勉強させてもらったことを今でも鮮明に覚えている。地域の方に育てられたことを記憶している。それが継続しており、自分の子どもも通うようになり、同じような体験をさせてもらっている。 ・北小地区は半分農村部、半分都市部で複合している地域であり、交通量の多い道路がある。在学中には自転車の乗り方教室をしてもらったことを覚えている。今も実施してもらえると交通安全のために良いと感じている。 ・PTAの改革に取り組み、胸を張って下野市内や全国に発信できるような新しい組織ができあがった。まだ試行錯誤の部分もあるが、他校のPTA会長などと話すと、先進的で素晴らしい改革ができたと感じる。他校にも波及していくといいと思う。
会長	・PTAの組織の在り方が全国的にも試されています。いち早く北小PTAは組織の在り方を考え、順調に進んでいるようですね。
委員	・先日もベルマークボランティアを募り集計をお願いしたところ、多くの方が参加してくださり、ボランティア体制への盛り上がりを感じられた。
委員	・自治会に携わっていて、世代間のギャップを感じることもあるが、子どもがきっかけで大人同士の付き合いが始まることは多い。PTA組織が新しくなったということだが、失敗してもいいからやってみるということは大切である。昔とは価値観が大きく変わっていると感じるが、新しいPTAには期待している。
会長	・学校の経営方針の中に地域との連携が入っていることはうれしいですし、ありがたいですね。
委員	・コロナ禍で失われたものがある。無駄を省くいいきっかけになったという面もある。自分の在学時は給食時にグループになって、友達との会話やつながりが楽しかった。現在はそれがないが、今後できるようにならないか。
会長	・コロナでいろいろなものが失われましたね。逆にコロナのおかげで新しいものが見えてきたということもあるはずですね。先生方から感じている点などありますか。
校長	・給食も指導の一環であり、現在の状況の方が指導はしやすいとの教員からの声はある。児童全体が見渡せ、誤飲の確認がしやすく事故防止につながっている。アレルギー対応給食の児童の確認もしやすくなっている。給食時の会話の楽しさは認識しているが、アレルギー確認や誤飲防止などの安全性の向上の観点から考えると、前向き給食という方式はコロナ禍で得たものと言える。市内では、ほとんどの学校で前向き給食を続けている。

会長	・アレルギーは怖いですからね。
委員	・先ほど、給食指導を見させていただいた。残さない指導のためかもしれないが、配膳時に、減らすための声かけになっているように感じた。増やすための声かけをして、子どもたちにはいっぱい食べてもらいたい。
委員	・3A運動の中に「あいさつができる子」とあるが、その中でも「ありがとう」を素直に言えるようになって欲しい。
会長	・いつ頃から3A運動に取り組んでいるのですか。
校長	・はっきりとは分からないが、だいぶ前だと思う。
推進員	・3代前の校長の頃からではないか。
委員	・自分がPTAに携わっていた時代と比べると、保護者と教師と児童がだいぶ同じ方向を向いている。小学校は地域と密着した活動になっているので、中学校までは北小のように地域と密着したよさを継続していけるとよいと思う。中学校の活動にも地域との密着を働きかけることで、より温かい地域になると思う。 ・高速インターチェンジの工事により通学路が遠回りになっており子どもたちは大変な思いをしている。完成後は交通量の増加も予想されるので、今後さらに交通安全の意識を向上させていくことが必要。
会長	・もう目の前まで工事が迫っていて、子どもたちは通れなくなっているのですよね。
校長	・子どもたちは通学路を変えて登下校をしている。工事の進捗状況に応じて、ルート of 突然の変更もある。
委員	・ルートの変更に関し、工事関係者は子どもには言わず、私（スクールガードボランティア）にだけ言う。子どもは突然の変更は知らされない。 ・今年度は、1・2年生はほとんど学童保育なので、3～6年生と下校している。今年度の子どもたちはほとんどしゃべらず歩いている。その年によって子どもたちの様子が異なり、それを感じるのがスクールガードボランティアの醍醐味。
委員	・上原方面の子どもたちは、朝はしっかり歩行、帰りはリラックスして歩いている。ずっと無事故が続けているのはプレッシャーにもなる。
委員	・遠方からの児童はどうしているのか。

委員	・上古山地区からは遠いのだが、基本的には歩きで、一緒に歩いてくださる大人（スクールガードボランティア）はいない。農作業中の方が畑から見守っているのが現状。悪天候時は車で送迎が多い。
委員	・スクールガードもいろいろなやり方があり、近隣地区には結構いるようだ。
委員	・スクールゾーンなどの表示があるとドライバーの意識が違う。
委員	・わんわんパトロールなどの見守りの目があるだけで違う。
委員	・継続してやってもらうことが大切。
委員	・登下校すべてにはスクールガードがつかなくても、負担がかからないようにある場所からある場所までというブロック制もありなのではないか。 ・スクールゾーンには善し悪しがあることも認識しておく必要がある。スクールゾーンがあるということは、不審者に対し、子どもが通る場所であることを周知してしまっていることにもなる。
委員	・平成27年中央教育審議会の答申について紹介いたします。 《資料「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」の紹介、読み上げ》
推進員	・グランドデザインによると、石橋中学区の目指す子ども像は「地域とつながり社会に貢献できる子」とあり、石橋北小は他校と比べて地域の方とかなり密接な関わりをもって連携して学校が運営されている。石橋中学校区に、石橋北小の取組を広めていきたい。
推進員	・地域の方が関わってくださっていて、三方良しが実現する形になっている。
会長	・たくさんのご意見ありがとうございます。北小の教育目標では、「心豊かな子」が一番初めに掲げられており、それが北小の特徴です。今後もよろしくお願いします。 （４）承認
校長	・承認いただけるということでよろしいでしょうか。
各委員	・拍手

5 教職員との懇談

(1) 自己紹介

(2) 懇談会「地域と共にあるこれからの小学校の姿とは」

(3) 振り返り

6 地域学校協働活動推進員あいさつ

・地域学校協働本部を設置し、学校の困り感に応える支援をコーディネートしていく。

閉会